

戦時下の食糧

大日本産業報国会が出した戦時下における食糧について、労働者に向けて玄米を食べることを奨励する手引き書です。これによると、玄米を食べる第一の理由は、脚氣の予防、脚氣に罹ると寝れやすくなったり肺炎や脚子フスに罹りやすくなるため、第二の理由は、戦争に勝つため、米不足による米の節約を図るということです。注意点として、よく噛んで食べることで、家庭での玄米の炊き方や注意事項を述べています。

昭和十八年三月

産業人のために

玄米の炊き方、食べ方

大日本産業報国会

何故玄米を食べねばならぬか

玄米を食べねばならぬ理由は色々ある。その第一は脚氣の豫防のためである。その第二は戦争に勝つためである。

第一の理由として挙げた脚氣の問題については「私等は脚氣等にかゝつた事はない。玄米飯を食べる必要はない、私の様な丈夫なものには迷惑な話だ」と云ふ人もあらう。併し我々の間には脚氣に罹る人も多く、また本人も他人も氣のつかないやうな軽い「氣のつかない脚氣」にかゝつて居る人が多いのである。支那事變前の話になるが、毎年一萬人からの同胞が脚氣で死んで居たのである。この様な事は他の文明國に見られない現象で、まして氣のつかない脚氣にかゝつて居る人は想像のつかない程多いのである。この様な人はからだがだるく疲れ易く、ねむたがり、人によつては目が悪くなり、耳が遠くなり、若し肺炎や腸チフスの様な高熱の病氣にかゝつた場合死に易いのである。戦争に勝つために生産力を増強せねばな